

米子市立山陰歴史館

歴史館だより

2024. 12. 20 vol. 12



歴史館のマスコットキャラクター
れきくん しーちゃん かんくん

企画展 再発見資料

～ガラス乾板に記録された戦前の米子～



石垣前の記念写真

タムラ写真館の干村廣三郎氏が戦前に撮影されたガラス乾板写真を中心に、関連資料を展示し、郷土の戦前の暮らしや風景を振り返ります。

会 期 1月26日(日)～3月30日(日)まで

開館時間 午前9時半 午後6時(午後5時半が最終入館時間です)

休館日 毎週火曜日 ※ただし2月11日(火)は開館

年末年始 12月29日(日)～1月3日(金)、2月12日(水)

会 場 米子市立山陰歴史館 1階第1展示室

観 覧 料 一般・300円(15名以上の団体1名250円)

70歳以上、大学生以下、障がいのある方(介護者1名含)は無料

主 催 米子市・米子市教育委員会・(一財)米子市文化財団

新寄贈品紹介 「二本木・箕村田畑地続全図」

令和6年10月に天保期の会見郡二本木・箕村田畑地続全図と明治期の耕地絵図を市民の方から寄贈していただきました。

田畑地続全図は村の田畑や屋敷の状態を把握するため一村ごとに藩が作らせたものです。

田畑地続全図は約2.5m×4.3mと大きいため、学芸員がドローンを駆使して資料写真を撮影しました。



ドローン撮影風景



会見郡二本木・箕村田畑地続全図

米子市歴史館友の会研修会報告

新型コロナウイルス拡散の影響もあり、しばらく中止していました米子市歴史館友の会の研修会を11月22日に開催しました。研修先は鳥取市の「やまびこ館」、「青谷かみじち史跡公園展示館」、倉吉市の「小川氏庭園」の三か所です。各施設では、学芸員や担当者から解説を受け大変参考になりました。「やまびこ館」ではバックヤードや米子関係資料を見せていただき、また、小川氏庭園では紅葉する庭園と茶室での抹茶を堪能しました。



「やまびこ館」バックヤード



小川氏庭園

展 示 ・ 収 蔵 品 紹 介

2階 展示室 電話機

歴史館 2 階の常設展示室では、明治・大正・昭和時代に使われていた様々な生活用具を常設展示しています。

1907 年(明治 40)、郵便電信局の米子～境間に電話回線が通じ、1909 年(明治 42)には米子町民の家で電話が使われ始め、当初は 116 台でした。その後淀江や尾高、御来屋、手間、法勝寺等周辺の町へ広がりました。

展示しているのは昭和時代の電話機で、テルビル磁石新電話機、壁掛け電話機、黒電話機、ピンク電話機です。携帯電話が普及した現代では考えられないレトロな電話機です。



展示の電話機

寄贈資料「鹿島家文書」の整理作業報告

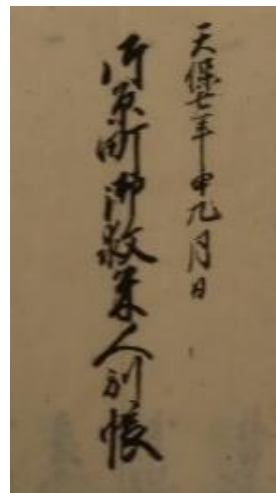
～鹿島家文書から思う、米子商人の心意気～

山陰歴史館が寄贈を受けた、江戸時代の貴重な資料に、鹿島家文書があります。近世のはじめに米子に移り住んだ鹿島家は、地道に商売に励み、19 世紀のはじめには、米屋や木綿商、質屋や貸金業を営み、また、多くの田畑を所有する、城下でも指折りの大商人となりました。鳥取藩の御用も増え、幕末の八代次郎右衛門(長行)の頃には、藩への貢献により御側役格となっています。

幕末の動乱期になると、米子城四重櫓の修理や江戸台場防衛の費用、藩主慶徳の京都駐在や長州征伐など、鳥取藩は多くの出費を余儀なくされます。もとより財政難であった藩は、多くの町人に献金・借銀を要請し、鹿島本家・分家は数万両もの献金を強いられました。鹿島本家の中庭、下鹿島家(分家)から本館に寄贈された米子城四重櫓の鯨は、その功勞として藩から送られた証拠の品です。

資料の中には、商売や町政、文芸に関わるものと共に、同家の家訓が残されています。これは、手堅い商売と「石門心学」の実践を、神仏への起請文という形で記されたものです。「石門心学」とは、「人の道を実践しながらの商売」。天保の飢饉の際、鹿島両家は窮民に粥米をふるまい、「他国と違い、米子の町に飢える者なし。」と記録されました。

鹿島家文書を読むにつけ、大谷・村川両家の竹島渡航、後藤快五郎の鉄道敷設、初代坂口平兵衛の渋沢訪米団参加などに通じる、激動の時代を逞しく生きた、米子商人の心意気を感じるのです。



天保七年 片原町御救米人別帳

コラム 館長のつぶやき

歴史館友の会の研修に参加しました。一路鳥取を目指し鳥取市歴史博物館「やまびこ館」に到着。学芸員の丁寧な解説で施設を見て回りました。2000年(平成12)に開館した完全空調のやまびこ館と1984年(昭和59)に米子市役所旧館を再利用し、ストーブを焚く我が山陰歴史館の施設との落差に愕然としながら、新しがり屋の米子の気風と伝統を重んじる鳥取の気風との歴史文化の違いなのかと思ひ、ため息が出ました。



「やまびこ館」展示室

令和6年度の今後の主な展示と事業

事業名	内容・入館料・入館者数	開催日又は実施期間
常設展 米子城展、昔の暮らし展、 鉄道のまち 米子の歴史展 昭和の学校、弓浜絃展 開催中	国史跡米子城跡、尾高城跡、鉄道資料、民俗資料、昭和の学校、米子の遺跡など郷土の歴史を透して、人々の暮らしの様子を紹介しています。 観覧無料	通年・随時展示替
企画展 「いつもはしまっておいた民具展」	郷土の暮らしや産業を支えてきた民具や、それに関連する写真や資料を展示し、その歴史を紹介する。 観覧料：300円	10月27日(日)～ 1月13日(月・祝) ※関連事業：絃製作体験、唐箕体験など
館蔵品展 「再発見資料 ～ガラス乾板に記録された 戦前の米子～」～ 共催：米子市埋蔵文化財センター 上淀白鳳の丘展示館	令和5年度に寄贈されたタムラ写真館コレクションのガラス乾板の米子市内各所の写真を中心に、郷土の歴史を振り返る機会とする。 観覧料 300円	令和7年1月26日(日) ～3月30日(日)

米子市立山陰歴史館



開館時間 9:30～18:00 (17:30までに入館)

休館日：毎週火曜日 祝日の翌日 12月29日～1月3日

〒683-0822 鳥取県米子市中町20番地

電話/0859-22-7161 fax/0859-22-7160

<https://yonagobunka.net/rekishi/>

E-mail:saninrekishikan@dear.net.jp [編集：小原]